

2008 年度

科目名  <p style="text-align: center;">日本語日本文学特殊講義ⅣA</p>	対象学科・学年 文学部日文3回生	担当者  <p style="text-align: center;">高橋 圭一</p>
授業テーマ 最後の「大坂の陣」		
授業の概要と目標 「実録」についての講義です。実録とは「事実の記録風の小説」の意で、多くは江戸時代に実際に起こった事件を題材とし、間違いなくこれが真実であると銘打たれているものの、浮世草子や読本同様全くの創作とみなすべき作品群です。予定より遅れに遅れていますが、『大坂城の男たち』という本（岩波書店刊）を出しますので、大坂の陣関係の実録を今年度限りとして取り上げます。		
評価方法  講義の終わりにレポートを提出してもらいます。出席も重視します。		
テキスト 使用しません。原稿のコピーを配布します。	著者	出版社
参考書 『実録研究一筋を通す文学一』（購入の必要はありません）	著者 高橋圭一	出版社 清文堂出版
授業スケジュール・内容 1、実録序説。実録とはいかなる文学か、どのような作品（群）があるのか、どのように読まれたのか、など。 2、 続き。実録と貸本屋のこと、馬琴の婿養子のことなど。 3、 続き。幕府からはどのように見られたのか、など。 4、 続き。実録と軍学、実録研究が立ち遅れていることなど。 5、「難波戦記物」実録の概観。徳川最良の作品。 6、 続き。豊臣最良の作品。 7、本編その一。「苦悩する忠臣」片桐且元。 8、 続き。時間稼ぎ。 9、 続き。片桐且元と大筒。 10、 続き。「大坂方のスカウト」片桐且元。 11、本編その二。「大坂城中の花」木村長門守重成。 12、 続き。木村長門守の堪忍袋。 13、 続き。和睦の使者、木村長門守。 14、 続き。木村長門守の死。蘭奢待の香り。 15、講義の中で、大坂の陣の講談を本職の上方講談師を招いて読んでもらう予定です。（落語は咄す、浄瑠璃は語るに対して、講談は読むと言います）前期・後期一回ずつと考えていますが、日程は今のところ未定です。		